



Title	第2言語学習における「書く」という媒介された行為について
Author(s)	横井, 幸子
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 2024, 20周年記念特別号, p. 170-172
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102033
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

≪ Column 13 ≫

第2 言語学習における「書く」という媒介された行為について

キーワード：社会文化理論、媒介された談話分析、「書く」活動、sociocultural theory, mediated discourse analysis, writing activity

「書く」行為における道具の媒介と言語学習

「書く」という行為には様々な道具や物が関与するが、その内学習につながるものを「媒介」という概念を使って捉えようとしたのは、ヴィゴツキーらの学説を中心にして発展してきた社会文化理論である。これまでの研究から、対話や協働を活動に取り入れるといった社会的媒介は勿論のこと、その際第1言語の賢明な使用、文法や表現、書く内容について話し合う等、言語の多様な媒介によって学習者のテキストの質が向上して、第2言語学習が進むことがわかっている。一方で、これらは言語等「心理的道具」の媒介に注目した研究であり、辞書や筆記用具、教材といった「技術的道具」の媒介については軽視されがちであった。例えば、「手紙を書く」行為には筆記用具と紙が媒介し、書き手がペンを握って紙上に文字を記す行為を繰り返すとテキストが産出され、手紙という成果物が残る。他方、「Eメールを書く」行為には電子機器が媒介し、書き手はキーボードにタイプしたり面上でフリックしたりして文字を入力してテキストを生成し、メッセージはデジタル形式で保存される。このように、「書く」行為の中身は実に多様で、媒介物・道具によってそれらと共に起る動作が異なり、結果として学習過程や成果物に差を生む可能性がある。

第2言語で「書く」活動において何を媒介すれば学習につながるのかを解明するために、これまで様々な研究方法が用いられてきた。例えば、グループの「書く」活動における社会的媒介を調べるために、活動中のやりとりを録音・録画して談話分析を行えば、対話や協働と学習の関係を検討することができる。また、活動中どのように心理的道具が媒介するのかを分析することもできる。しかし、技術的道具の物理的媒介は音声データとしては捉えられないことが多い。また、動画データであっても、談話分析は言語テキストに注目する場が圧倒的に多いため、学習者の動作を中心とした分析は殆どない。「書く」活動の物理的側面を解明するためには、活動の様子を捉えた動画データを収集するだけでなく、個々の動作を中心として物理的に組み立てられていく学習過程を分析するツールが必要となるだろう。

媒介された談話分析

行為と道具の媒介を分析するツールに、媒介された談話分析 (mediated discourse analysis: MDA; Scollon, 2001) がある。MDAは、言語テキストというよりは寧ろ、特定の時間と場所で局所的に展開される個々の行為を成立させる様々な要素の媒介メカニズムを解明しようとする (Scollon, 2001)。一例として、Horii (2022) のデータを再分析したものを紹介する。ある大学のロシア語の授業で、学生達がロシア語テキストを読んでロシア語で要約するという活動に取り組んでいる。授業では、要約文用の罫線用紙、教

師が作成したプリントが配布され、要約文を書く前にその構成を考えるよう指示されている。図1をご覧ください。

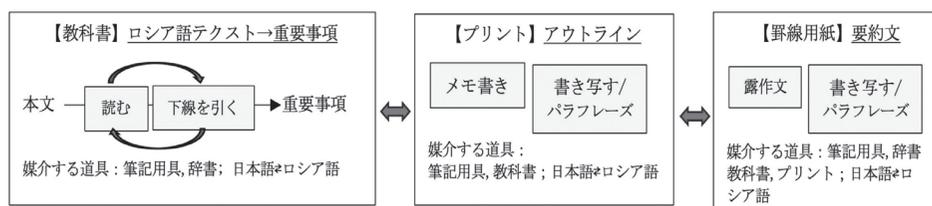


図1 個人ワーク：ロシア語テキスト→アウトライン→要約文(2019年11月20日)

まず、教科書のロシア語テキストを読み、要点を特定して抽出する。この行為には「理解する」という要素が含まれており、電子辞書を開き単語を打ち込んで語意を調べる、調べた単語の意味を、筆記用具を用いて教科書のテキストの行間に書き込むといった動作を伴う。次に、学習者が重要と判断した箇所に、筆記用具で下線を引く。続いて下線部を参照しながら、要約文のアウトラインをプリントの枠内に筆記用具で書き入れる。このメモ書きには日露両言語が使われており、要約内容が箇条書きで記される。また、ロシア語の表現も教科書から直接書き写される。最後に罫線用紙にロシア語で要約文を書く。その際、辞書を引いたり、教科書からロシア語表現を書き写したりするといった動作が伴う。このように、活動中は教科書、プリント、罫線用紙の媒介が筆記用具と共に頻繁に見られた。特に、教科書、プリント、罫線用紙各々に書かれたテキストが頻繁に往来する時には電子辞書も媒介することが多く、結果として、活発な日露両言語の往来/媒介が観察された。

一方で、プリントを用いずに要約文を書く学生もいた。その場合、「書く」行為は教科書と罫線用紙間の往来に限られ、ロシア語テキストに「下線を引き」その箇所を罫線用紙に直接「書き写す」という動作に終始し、要約文を書く段階での日本語の媒介は殆ど観察されなかった。このように、MDAによって、ロシア語で要約文を「書く」行為には、ロシア語テキストを「書き写す」あるいは「作成する」といった異なる動作が異なる認知能力を要求するため、学習効果に違いを生む可能性があることを明らかにすることができる。

従来、社会文化理論は人間の認知過程における心理的道具の役割に重点を置いてきたが、昨今の技術革新等により、技術的道具の媒介が人間の認知自体に変容をもたらしている。今後、テクノロジーの活用を踏まえた効果的なライティング指導を提案するために、心理面・物質面両面で二重に媒介される「書く」活動の学習過程を精査する必要があるだろう。

引用文献

- Horii, S.Y. (2022). Material mediation in L2 writing activities in a college Russian FL classroom in Japan. In D. LaScotte, Corinne S. Mathieu, and Samuel S. David (Eds.), *New Perspectives on Material Mediation in Language Learner Pedagogy* (pp. 171-187). Springer.
https://doi.org/10.1007/978-3-030-98116-7_10
- Scollon, R. (2001). *Mediated discourse: The nexus of practice*. Routledge.

横井 幸子 (大阪大学)